

## AEGIS-Women イベントご報告（第78回日本臨床外科学会総会）

第78回日本臨床外科学会総会（東京）会期中、コヴィディエン ジャパン社のブースを一部お借りして、AEGIS-Women のイベント第2弾「外科医による『キャリアアップ10ミニッツ・セミナー』」を開催しました。

なお、消化器外科学会の会場で皆様に AEGIS-Women 応援ビデオを撮影させていただいたものを、この臨床外科学会会期中に上記ブースで上映させていただきました。撮影にころよくご協力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。

このブースに多くの先生方がお越しになって意見交換をされるなど、さまざまな交流が生まれました。今後ともよろしく願いいたします。

### 外科医による『キャリアアップ10ミニッツ・セミナー』

#### 会長挨拶

高槻赤十字病院 平松 昌子 先生



本会立ち上げに至ったいきさつ、AEGIS-Women という愛称の由来、ロゴマークのデザインに込められた思いなどをお話しいただきました。

## 外科医が知っておくべき感染症（耐性菌の治療）

三重大学大学院医学系研究科 先端的外科技術開発学 小林美奈子 先生



薬剤耐性菌は世界的な問題となっていて、日常臨床現場でも、MRSAだけでなくESBLやCRE、MDRPなどの耐性菌を診る機会が増えてきました。しかし、これら耐性菌の抗菌薬治療に自信がある外科医は少ないと思われます。

## （1）MRSA 治療

抗MRSA薬に関してはVCM、TEIC、ABK、LZD、DAPの5種類の薬剤特性を理解し、使い分ける必要があります。

VCMはAUC/MIC $>$ 400以上で治療効果があるとされているため、薬剤感受性試験のS（感受性）、I（中間）、R（耐性）だけを見るのではなく、MIC値まで確認したうえで使用しなければなりません。薬剤感受性結果が「S」であってもMIC値が2.0の場合にはVCMでの治療はできません。

TEICはMRSAに対する抗菌活性はVCMと同程度であり、VCMよりも安全域が広いのです。ただ、米国で使用されていないため、エビデンスが少ないことと、loading doseが必要になります。またVCM、TEICなどのグリコペプチド系抗菌薬はTDMが必要です。

LZDは腎機能に関係なく使用でき、TDMが必要ありません。また組織への移行が良く、経口剤へのスイッチも可能です。ただ抗菌作用が静菌的であることと、副作用として血小板減少があることに注意してください。

DAPもTDMが必要なく、組織への移行が良い薬剤です。また抗菌作用は殺菌的で、抗バイオフィルム効果があります。しかし肺ではサーファクタントにより不活化されるため、肺炎では使用できません。また抗菌力は濃度依存性ですが、高濃度で使用するとCPK上昇、筋肉障害が副作用として挙げられます。

## （2）ESBL 治療

ESBL産生菌治療の第1選択はカルバペネム系薬ですが、薬剤感受性結果を参考にTAZ/PIPCやCMZ、FMOXへのDe-escalationを常に考え、カルバペネム系薬剤の長期使用は慎みましょう。

## （3）CRE や MDRP 治療

CREやMDRP治療にコリスチンやチゲサイクリンが特効薬のように思われがちですが、実際に薬剤感受性試験を行うと、これらに耐性を示すことがしばしばあります。このようなカルバペネム系薬剤に耐性を示す細菌の場合には、真の感染症で抗菌薬治療が必要か否かの判断を正確に行い、治療必要と判断された場合には、感染症専門医等への相談が必要です。

## 専門医制度から見た出産時期の選び方 — いのち短し恋せよ乙女 —

東京大学大学院医学系研究科消化管外科  
野村 幸世 先生

昨今、女性医師、しかも若い世代の女性医師が増加していることは皆様ご存知のことと思います。外科医も然りで、外科学会の会員に占める女性の割合は年々増加しております。これは、大変歓迎すべきことと思いますが、女性外科医には外科の仕事以外にもう一つ大事な人生の仕事があります。子供を妊娠、出産することです。少子化が叫ばれている日本の現状においては、妊娠、出産は外科医として社会に貢献するのと同じくらい重要な社会貢献と言えます。そこで、私たちはこの両立を目指したいものです。

25歳で大学を卒業した後のキャリアパスでは、最短では30歳までに外科専門医を取得できます。出産時期としてはこの後が考えやすくもありますが、2階建ての専門医研修がここに重なる可能性があります。しかし、やはり、身体的には35歳までに出産をすることがオススメであり、2階建ての専門医研修は少し先に延ばしても、30代前半での出産を考慮した方がいいでしょう。

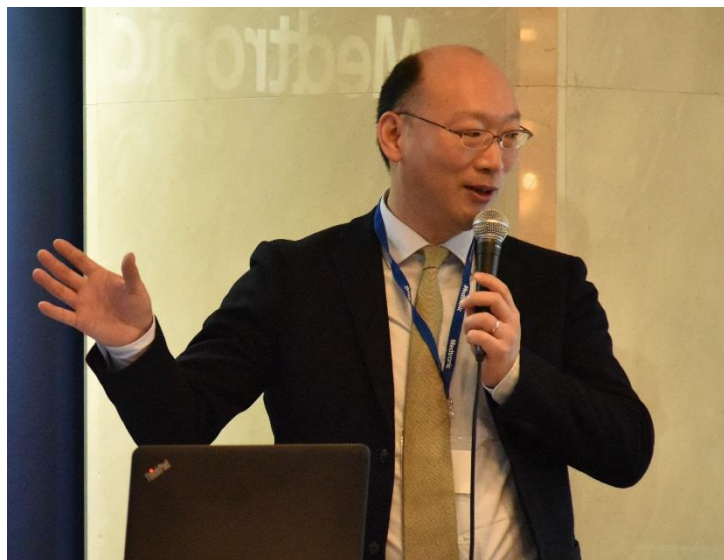
40歳前後にご出産を計画されておられる先生もいるかと思いますが。十分にキャリアを積んだ後の妊娠、出産も社会的強さがあり、いいものです。その場合、卵子凍結もひとつの手段だとは思いますが、凍結をするなら、若いうちに行わないと、成功率が低下します。また、40歳前になり、パートナーと探そうとしても、それは狭き門です。相手も妊娠、出産の可能性を考えてしまうものです。ですから、たとえ40歳前後のご出産を計画していても、パートナーの確保は是非、もう少し若いうちにやっておくことをお勧めいたします。女性外科医の遺伝子を残しましょう。



## いつでもどこでも手術トレーニング！ダイナミック手術テキスト～肝臓編～

筑波大学 医学医療系 消化器外科・臓器移植外科

大城 幸雄 先生



近年、日本の医療界では外科医の減少が切実で、いかに魅力ある外科医を教育していくかが喫緊の問題となっており、ICT環境の構築やイノベーション教育の展開が求められています。

その中で私たちは、外科医・研修医・学生を対象に、ダイナミック手術テキスト肝臓編をiPadによるデジタル教科書として完成させました。従来の教科書を単にPDF化したような教材とは大きく異なる数々の特長を備えています。

テキストは、解剖・手術・コツとピットフォールの3部構成となっています。実際の患者さんからのCT映像などをふんだんに取り入れて動画として編集しました。さらに3D加工することで、手術解説画像がリアルタイムに変形するところや、さらに裏側から見るができるなどの工夫を凝らしました。特に手術動画を約50本収録しており、手術の手順が一目で分かるようになりました。映像が豊富なため比較学習も容易になっています。

例えば、図を見ても分かりにくかった糸結びの方法については、ワンタッチで紙芝居のように展開していく形式にしたので、誰でも技術習得がしやすくなりました。CGクリエイターが監修したオリジナルイラストやアニメーション画像も豊富に収め、ナレーションもプロに担当してもらうなど、聞くだけでも学習効果が得られます。

学生にも大変好評で、実機で勉強した後のテスト成績は50%も上昇し、効果も実証されました。アンケート調査で特に印象が強かった特徴を挙げてもらったところ、手術動画が大変見やすい点や、Couinaudの肝区域分類についても動画映像で理解しやすかった点が特に高い評価を得ました。

iPadの中に収められたアプリケーションソフトで起動しますので、インターネット環境は必要ありません。持ち歩きながら機動的に学べるということで、女性医師の方々にも強い味方になると確信しております。